

令和8年7月31日発行

法人理念

人が人として人とともに豊かに生きる

基本方針

1. わたくし達は人との出会いを大切にします
2. わたくし達は思いやりと謙虚な気持ちを大切にします
3. わたくし達は個人を尊重し心優しい援助に努めます
4. わたくし達は社会福祉に貢献できるよう資質の向上に努めます
5. わたくし達は地域との信頼を深め開かれた施設運営に努めます



社会福祉法人 甲山福祉センター 西宮すなご医療福祉センター

〒663-8131 兵庫県西宮市武庫川町2番9号 TEL:0798(47)4477 FAX:0798(43)1022

HP: <https://www.sunago.or.jp> E-mail: mail@sunago.or.jp



3階病棟

山崎 達哉

6月1日の院外活動で、姫路セントラルパークを訪れました。

まずは、出発前に参加者全員で動物の動画を視聴しました。視聴中はじっと食い入るように動物を見ておられ、これから始まる外出を楽しみにされている様子でした。

当日は天候に恵まれ、バスから見える初夏の山々や鮮やかな緑、行き交う車にも興味を示されていました。到着後はゆうゆう号に乗ったままサファリ内へ。車高のあるバスからは、崖の上でくつろぐライオンやのんびり草を食べるシカ、水辺で静かに過ごすカバ、首と舌を伸ばしてエサを求めるキリンなどを間近で観察することができました。普段はなかなか目にするのことができない動物たちの姿に、利用者の方々は左右に顔を向けて熱心に見ておられました。自然のなかで動物たちの様子に触れ、季節の景色も楽しめた、思い出深い一日となりました。



令和8年度 保護者会総会報告

保護者会 会長 大谷 晃 様

入所部門

《令和8年度 保護者会役員》

役 員	病 棟	名 前	今 期
会 長	4階病棟	大 谷	留 任
副 会 長	3階病棟	福 田	留 任
	西 病 棟	宮 下	新 任
会 計	3階病棟	木 田	留 任
書 記	2階病棟	榎 元	留 任
常任幹事	西 病 棟	神 田	新 任
	2階病棟	榎 元	新 任
	3階病棟	川 路	留 任
	4階病棟	白 旗	留 任
幹 事	西 病 棟	松 尾	新 任
	2階病棟	小 宮	留 任
	2階病棟	武 藤	新 任
	3階病棟	阿 部	留 任
	4階病棟	源 済	留 任
	4階病棟	玉 井	留 任
会計監査	西 病 棟	豎 山	新 任
	3階病棟	川 野	新 任

先日、中庭の西宮すなご医療福祉センター50周年記念碑をぼんやりと眺めていました。人が天を仰いで手を広げる姿をモチーフにした意匠には、「共に生きる喜びを分かち合いたい」という願いが込められています。感慨深い記念碑と改めて思いました。入所者の安心・安全・健康的な日常生活を見守っておられる職員の皆様方には感謝と御礼を申し上げます。

保護者会の高齢化も進み、以前のようにわが子の面会もままならない状況に直面している今日であります。親亡きあと、わが子がどう西宮すなご医療福祉センターでの生活を暮らしていくのか？今後、将来的に重要な問題があります。

「人が人として人とともに豊かに生きる」西宮すなご医療福祉センターの理念のもと、入所者が希望を持てるように職員の皆様方、保護者の皆様方とともに進んでまいりたいと思います。

今後とも、ご指導、ご支援のほど何卒よろしくお願い申し上げます。



2階病棟

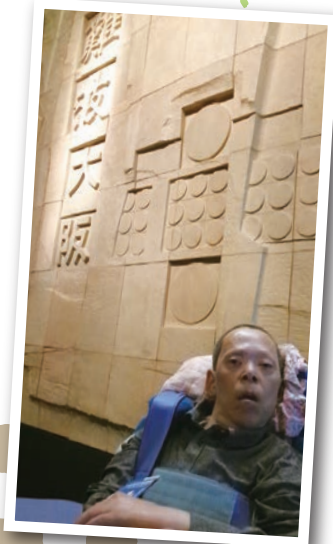
安藤 隆一

6月25日、院外活動で大阪市歴史博物館に行ってきました。今回は20代・40代・50代の利用者が一名ずつ参加されました。

順路は10階からスタートし、10階・9階・8階・7階の順で降りていくことで、大昔の歴史が徐々に近代の歴史になっていく構成でした。

10階では映像での紹介からスタート。病棟のような照明で明るい環境とは違い、やや薄暗い雰囲気の設定だったので、普段以上に周りを見ている方もいました。話が少し難しかったのか傾眠気味になられた利用者もおられましたが、他の方は常に覚醒状態も良く、職員と一緒に展示物を観たり、説明を聞いている間も視線を合わせたりなど、興味津々な様子でした。7階フロアは復元した等身大の人形やお店など、目で見て楽しむ展示が多かったためか、皆さんしっかり覚醒して嬉しそうな顔をしながら楽しんでいました。

フロアにもよりますが、幅広い年代の方が楽しめる展示になっていました。機会があれば、皆さんも是非行ってみたい下さい。



西病棟

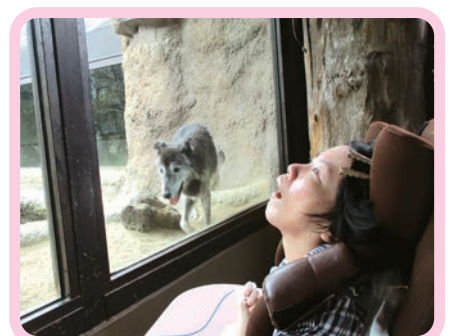
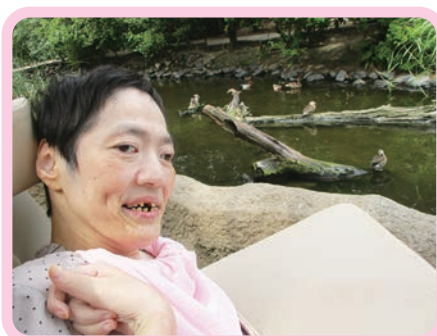
山口 文菜

西病棟では院外活動で「神戸どうぶつ王国」へ行ってきました！

バスの移動中から皆さん笑顔で、待ちきれない様子で外を見たり、職員との会話を楽しんだりしていました。到着後に最初に対面したのは狼や虎などの大きな動物で、圧倒された様子でした。

神戸どうぶつ王国では触れられるぐらい動物が近くにいるので、車椅子でもとても見やすく、木の上にいるアリクイや目の前に降りてきたコモンマーモセット（調べてみてくださいね♪）を目を見開いてじっと見ていました。カモの餌やりでは鳥が集まり過ぎて驚くかと思いきや、皆さん意外と平気な様子で穏やかに眺めていました。

帰りのバスでも眠ることなく、声を出したり職員や周りを見渡したりと、最後まで元気いっぱいの院外活動となりました。



4階病棟

安達 了一

海とバイキングと私

皆さんこんにちは。今年度4階病棟に配属になり、配属後の初めての院外活動は神戸でバイキング料理を楽しんできました。

当日は梅雨入り後というのに快晴で暑いほどの好天、神戸の街もすっかり夏の装いで迎えてくれました。ワールドビュッフェというレストランで中華フェアが開催されており、個室にて普段は食べることのないような料理を楽しめました。皆さんの笑顔を見て、美味しいご飯は力になるし、笑顔にもなるんだなと実感しました。

バイキングのあとはメリケンパークの散策、BE KOBEのモニュメントで記念撮影、遊覧船の出航の見送りなど盛りだくさんな一日、皆さん少し疲れた…様子もなく神戸の街を満喫できたようです。

利用者の笑顔が一番のごちそうです。これからも一緒に楽しみ、笑えるような院外活動をプロデュースしていければと思います。



通所支援室

つばさ



奈良 祐里子

春のつばさ

つばさでは新たに2名の利用者を迎え、いろいろな活動で春を楽しみました。

中庭で「お茶クイズ大会」や「だるまさんがころんだ」をしたり、お花見やこいのぼりを見たり、心地よい日差しや風を感じました。

院外活動では、阪神電車に乗って買い物に行きました。買いたい物を見つけたり、家族から頼まれたメモを見ながら店内を回って探したりするのも楽しかったようです。前日のソワソワ、当日のワクワク、買い物後の達成感が伝わってきました。

最近の音楽活動では、今までと違う楽器に挑戦する姿が見られ、ギターやウインドチャイムが人気です。また、体を動かすトランポリンやスイングボードを待ち遠しく思っている方もいます。これからも個別の活動を含め、利用者も職員も楽しい活動を考えていきたいと思います。



2026年度 トライやる・ウィーク



研修室 田原 賀代

今年度も鳴尾中学校の生徒2名と学文中学校の生徒2名を5日間ずつ受け入れ、さまざまな専門職の仕事を知ってもらうことができたと思います。看護体験では、看護師から人体模型を用いて人体の構造と機能や医療的ケアについての説明を受けたり、血圧測定などの実技を体験したりしました。また、発達障害支援室や通所支援室、入所病棟で活動体験や支援場面を見学し、利用者と一緒に季節の飾り付けも作ってもらいました。そのほかリハ室や家政室でも、初めてのことに緊張しながらも、さまざまな仕事体験に一生懸命取り組まれていました。

鳴尾中学校

2026年5月25日(月)～5月29日(金)



「人に優しく寄り添える人になりたい。」そう思ったのは、去年の秋頃でした。ですがその頃の私は、福祉でどのようなサポートをしているのか、どのような工夫が施されているのか、知る機会がありませんでした。

トライやるウィークで印象に残ったことがあります。それは食事介助の見学です。私は、最初職員の方がすべてお食事を利用者のお口に運ぶのだと思っていました。ですが、実際はご自身で時間を掛けて食事をされている方もいらっしゃいました。介助といえば、何でも手伝うイメージがあった自分ですが、手伝い過ぎないことも大切だと気付くことができました。他にも、無言にならずずっと声掛けをしていたことも、すごいと思いました。声掛けをすることにはとても体力が必要ですが、「何も言わずに行動してしまうと、利用者の方も驚いてしまう。」と聞き、欠けてはならないものだなと思いました。そしてその声掛けも、緊張させないように、安心できるように丁寧な言葉づかいでなど、工夫を重ねておられました。

私はこの体験を通して、「いきなりこんな工夫は難しい。」と思い、毎日の積み重ねとは偉大だと気付くことができました。「優しい」の形もさまざまです。日々模索し、自分の目標へ近づけるよう精進します。



私は医療福祉と聞き、スタッフさんは黙々と働いているのか、必要最低限の会話しかしないのかと思っていました。けれどこの5日間を通して想像とは全然違うのだと思いました。

1日目には散髪の見学をしました。私たちと違うのは、車いすのままどうしても動いてしまうという点です。『難しいのでは』『時間が長くなってしまうのでは』と思っていたけれど、利用者さんの負担にならないように外部の散髪業者の方と協力しながら素早くかつ丁寧にカットできるようにしていたのが驚きでした。さらに驚いたのは、ずっとではないけれど話しかけていたことです。2日目には食事介助を見学させていただきました。手が器用な利用者さんは、できるところまでは自分で食べることによって、できることを維持していることを知りました。3日目のPTさんのリハ見学では、やはり話しかけて会話をしながらその人の動かせないところを中心に、丁寧でありながら素早く進めていて、会話をしながらなので利用者さんがリラックスできるように工夫されているなと思いました。

5日間を通し知ったことは、何かをする時はいつでもコミュニケーションを心掛け、笑顔で働いているのだなということを知りました。

学文中学校

2025年6月1日(月)～6月5日(金)



私は「トライやるウィーク」で、西宮すなご医療福祉センターに行きました。

西宮すなご医療福祉センターに決めた理由は、昔からずっと困っている人のことを助けたいと思っていて、福祉系の事業所に行きたいと思っていたからです。

5日間お世話になるなかで経験したこと、教わったこと、分かったことは、挨拶やコミュニケーションが大切だということです。なぜなら、何かを教わるときや目上の人と話すときは、礼儀正しくすることが大切だからです。特にこの仕事は利用者さんとの接し方やコミュニケーションがとても重要ですが、利用者さんは一人ひとり違います。だから、その人に合わせて会話のペースや接し方をいろいろ考えなければなりません。大変でしたが、この仕事はとてもやりがいがあり、私のやりたいこととピッタリだったこともあって、ここで活動できてとても良かったです。



私が西宮すなご医療福祉センターで学んだことは、担当する利用者さんに合わせた接し方をすることです。病気などの理由で話すことや起き上がることが難しい人や、不意な事故で今までの生活ができなくなった人などがいて、一人ひとり、その人に合った接し方・・・例えばゆっくり、分かりやすい言葉で話したり、優しく笑顔で話しかけたりすることが大切だということです。

そして、やりがいを感じたことは、やり慣れていないことだったけど、自分がしたこと利用者さんたちに笑顔になってもらえたことが嬉しかったです。もう一つは、ひとつひとつ難しいことがあったけど、それを最後までやり切れたときの達成感が、すごく気持ちよかったです。

「トライやるウィーク」の5日間でいろいろなことが学べました。良い思い出になりました。ありがとうございました。



『NPO法人しぶたね』さんとともに！ きょうだい児支援の輪を広げよう！

相談支援課 種橋 礼子

このたび、病気や障害のあるお子さんの兄弟姉妹（きょうだい児）への支援をテーマにした講演会を開催いたしました。長年この活動が続けられている「NPO法人しぶたね」さんをお招きし、「子どもが『子ども』でいられるように」という願いとともに、温かいお話を伺いました。

障害のあるお子さんやその親への支援はいろいろあります。では、その子のきょうだいはどうかというと、存在が隠れてしまいがちなのが現実です。家族はまるでモビールのようにつながり合う存在。そのうち一人でもバランスが崩れると、家族全員がその影響を受けてしまいます。だからこそ家族丸ごとのケア、そしてきょうだい児へのまなざしも不可欠です。

しぶたねさんの活動には、「シブレンジャー」というヒーローが登場しますが、今回はその中から「シブレッド」さんが来てくださり、「シブレンジャー」のセンターは実は「シブブラック（黒）」であるという裏話もしてくださいました。これには、「寂しさや妬みといった黒い気持ちも全部大切な感情。どんな色の気持ちを持ってもいいんだよ」という、きょうだい児への強いメッセージが込められているそうです。

終盤には、きょうだい児当事者の参加者が「もっと早くこの活動を知りたかった。悩んでいた時分に参加してみたかった」と涙ながらに思いを語ってくださり、ほかの参加者や私たち主催側も目元を赤くして聴き入ってしまいました。

特別な専門職でなくても、家族として日々探し探りであっても、「ちゃんと見ているよ」「あなたの人生の主演はあなたなんだよ」という周りのまなざしが、きょうだい児の大きな支えになります。私たちも、障害を持つお子さんだけでなく、きょうだい一人ひとりが主演になれる温かい居場所づくりを心掛けていきたいと思います。



セラピードッグの訪問



生活支援課 宮野 紀子

5月に西病棟、6月に2階病棟、7月に3階病棟に、NPO法人日本レスキュー協会からセラピードッグ「みらいちゃん」と「笑吉(しょうきち)くん」2匹のかわいいワンちゃんに訪問してもらいました。あたたかくてフワフワの背中や足を触り、びっくりされる方、笑顔になる方、自然と手を出される方など、利用者の皆様にさまざまな反応がありましたが、2匹のワンちゃんのぬくもりに触れることで癒しや元気をたくさんいただきました。

みらいちゃん、笑吉くんありがとう!またすなごに遊びに来てね!



利用者様の作品紹介

児童発達支援室

ねっこ 

下吉 真理

ねっこでは、6月の制作活動で『あじさい』を作りました。2・3歳児は、絵の具スタンプをしたり、シールを貼ったり、クレヨンで描いたりしました。絵の具スタンプは、画用紙に色がついたのを見て「わあ!」とうれしい驚きの声や表情を見せてくれたり、色が混ざったのを不思議そうに見つめたりしていました。

4・5歳児は、折り紙をちぎってのりで貼ったり、葉っぱをハサミで切ったり、少し難しい道具の操作にも挑戦しました。ハサミを操作している姿を見て、「そんなことができるんだ!」と保護者の方もうれしい発見があったようです。

小学生は水性ペンを使ってにじみ絵をしました。色がじわっと広がったり混ざったりする様子を楽しんでいました。

そんなこどもたちの作品が、ねっこの壁面を素敵に飾ってくれました。



編集後記

春はすぐ終わり、梅雨、夏本番になりました。年々と暑さが増し、なかなか体が慣れないものですね。紫外線の強さに、日傘と日焼け止めは欠かせなくなりました。涼をとるといような風情ある言葉が似合わなくなってきたような…。

小休憩と水分補給をこまめにとり、体調を崩さずこの夏を越せるようにしていきましょう。

玉崎 千世

